

平成17年9月6日大水害

あれから10年

>31<

教訓は生かせるか：

パネルディスカッション

「災害の教訓を生かす」
自助・共助・公助」

【首藤】3番目の防災教育、防災訓練について、さまざまなことが進められておりますので、ぜひご参加いただきたいと思っております。

4番目に各防災関係機関との連携ということですが、ちょうど延岡市庁舎も新しくなり、その中に新しい災害対策本部室ができました。ここは通信ラインなんかも多重化されたので、従来と比べると強固な対策本部室になったと思っております。

通信ラインなど多重化

延岡市の
対策本部
従来と比べ
強固に

きればすぐに持ち出せるような場所に置いておいていただきたいと思っておりますし、家庭内備蓄についても、できれば1週間以上の食料品などの備蓄をお願いしたいと思っております。

そして、いざというときの避難場所はどこに行けばいいのか。これも地震津波のときの避難先と洪水のときの避難先、それぞれの自然災害の種類によって避難する場所も違う場合があります。

ぜひこういったあたりも家庭内で、子供さんと日頃の会話の中で確認するというようなことを進めていただきたいと思います。

延岡市の川島埋立場）
台風14号の洪水被害で発生したおびただしいがれきと浸水ごみ（平成17年9月12日、延岡市の川島埋立場）



先ほどの講演の中で、なかなか避難されない方がいるというお話もありました。東日本大震災のときに延岡でも津波注意報が出た中で、沿岸部、長浜あたりでは人だかりができたということでした。

津波注意報が出て海沿いに人だかりができるといのはどういったことかということが実際にありました。それは、東日本大震災の悲惨なテレビ映像などを皆さんご覧になる前で、津波の危険性から、やっぱり危機意識が薄いとそういうことになってしまっていると思っております。

われわれはみんな、いろんな地震・津波の悲惨な状況を映像で脳裏に刻み込まれておりますし、また、先ほどからずっと写真で紹介

されているようなことでもあります。ぜひこういったことを風化させずに行動に結びつけていただきたいと思います。そのための心構えをしっかりと持っていたいただければと思います。

コーディネーター
杉尾哲（宮崎大学名誉教授）

パネリスト

首藤正治（延岡市長）
図師雄一（宮崎県国土整備部長）
大塚法晴（元延岡河川国道事務所長）
森川幹夫（九州地方整備局河川部長）
猪狩信浩（NPO法人宮崎県防災士ネットワーク理事長）
福島宏一（元延岡市消防団長）
亀長馨（元北方町川水流区長）

防災・減災を考える
シンポジウムから――